

日本学術会議主催公開講演会 生殖補助医療のいまー社会的合意を求めてー
パネルディスカッション「生殖補助医療はどうあるべきか」

小児医療の立場からみた 生殖補助医療（ART）



九州大学病院
水田祥代

2008.1.31

Kyushu University Hospital

ARTにより生じる問題

1. 多胎妊娠の増加

⇒周産期医療への影響

ー妊娠中の異常

ー分娩時の異常

ーハイリスク新生児の増加

（児の遺伝的・形態的異常のリスク）

⇒家族の負担と社会的問題

2. 児の心のケアの問題

・親子関係

・後障害

2008.1.31

Kyushu University Hospital

ハイリスク新生児の増加

- NICUの恒常的満床状態
 - 周産期救急医療システムの破綻
- 多胎児は成長発達障害の発生が高率
- 先天異常の増加

2008.1.31

Kyushu University Hospital

どんな先天異常が発生するのか？

- 染色体異常
 - 性染色体
 - 常染色体
- インプリンティング異常
- 形態異常
 - ① 無脳児
 - ② 心血管異常
 - ③ 食道閉鎖症
 - ④ 臍帯ヘルニア
 - ⑤ 腎・泌尿器異常
 - ⑥ 直腸肛門奇形

2008.1.31

Kyushu University Hospital

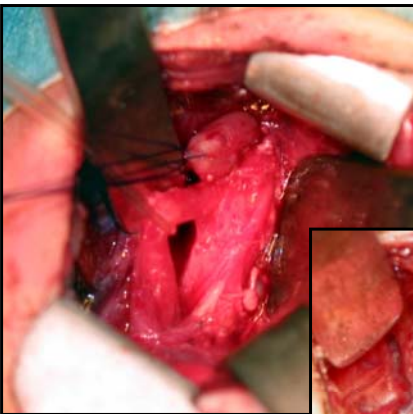
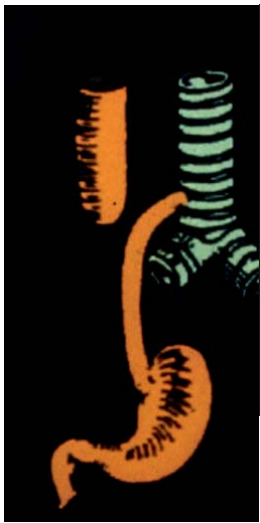
Beckwith-Weidemann syndrome



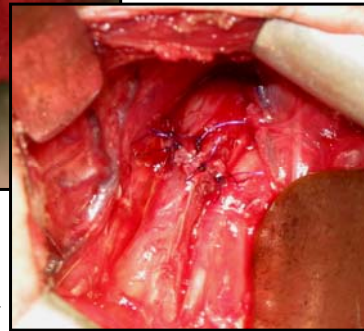
2008.1.31

Kyushu University Hospital

食道閉鎖症



TEF切離

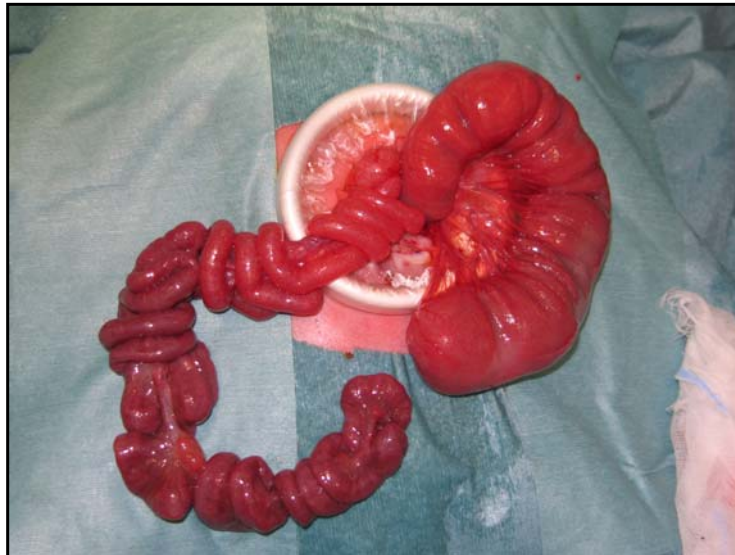


食道端々吻合

2008.1.31

Kyushu University Hospital

小腸閉鎖症



2008.1.31

Kyushu University Hospital

直腸肛門奇形（鎖肛）



2008.1.31

Kyushu University Hospital

腹壁異常（臍帯ヘルニア）



2008.1.31

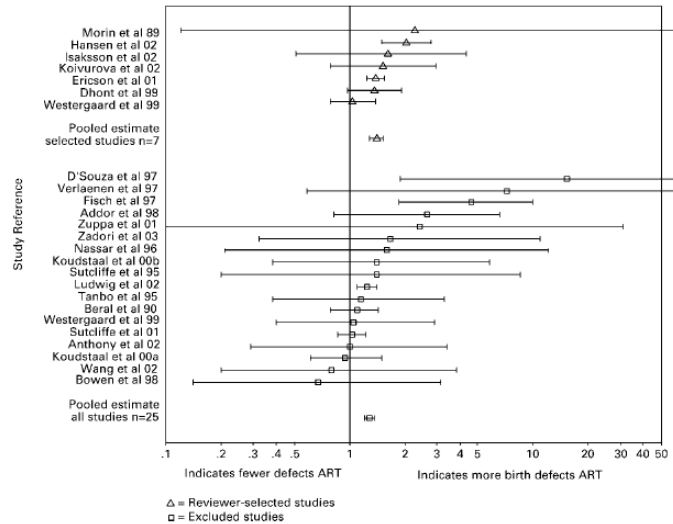
Kyushu University Hospital



2008.1.31

Kyushu University Hospital

ART治療による 先天異常発生のオッズ比



2008.1.31

Kyushu University Hospital

ARTと先天異常発生メカニズム

→不明

- ? ARTを受ける側の遺伝的負荷
- ? 胚の人工操作
- ? 淘汰の障害
特にICSIの場合
- ? 薬剤

2008.1.31

Kyushu University Hospital

- 全体的にARTによる先天異常の発生率は報告に一貫性がない
- フィンランド・スウェーデン・デンマーク
→国レベルの登録
自然妊娠に比較してやや増加
- ARTの方法によって差がみられる？
- 異常発生メカニズムはまだ不明

2008.1.31

Kyushu University Hospital

問題は

“先天異常をもつ児” の場合の 親へのアプローチ

- ART施行に当たっての十分な説明
- 小児科医・小児外科医を含めたチーム医療

⇒ 総合的な成育医療

2008.1.31

Kyushu University Hospital

こどもの成長発達への影響

1. 身体的発育
後障害？

2. 親子関係

3. 児のこころの問題

- 外国の報告では大きな問題はない
- 日本での実態調査なし
外国のデータではなく国民性を考えることが重要

2008.1.31

Kyushu University Hospital

代理懐胎の医学的問題

- 懐胎者への危険
- 胎児・子に及ぼす影響
医学的データが少ないため不明
 - ただし、妊娠のリスクを他人に押し付けることが許されるか？
 - 子宮内環境が胎児に与える影響

2008.1.31

Kyushu University Hospital

